

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	社会思想史A		
英文授業科目名	History of Social Thought A		
開講年度	2009年度	開講年次	1(2)年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	庄司 俊之		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
JZM04216@nifty.com	

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>思想は社会のなかから生み出され、また何らかの影響を社会のほうへ投げ返す。したがって社会思想史の主題とは、思想をつうじて社会や歴史を学ぶこと、あるいは特定の社会的・歴史的状況のなかでいかなる思想が要請されたか、されるのかといった点を学ぶことにある。</p> <p>本年度の講義では前期の「A」で、20世紀における西欧の全体主義を概観し、そして後期の「B」では、昭和前期、戦前の超国家主義運動を取り扱う予定である。もちろんAだけの受講、Bだけの受講も可能だが、年間をつうじての主題はファシズム経験の諸相を理解することにある。これは戦後世界のスタート地点を確認する作業であり、また、それは単なる過去の回顧という以上に現代を照らし出す作業ともなるはずである。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
とくになし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
とくになし

## 電気通信大学 平成21年度シラバス

### 【教科書等】

教科書：川崎修「アレント - 公共性の復権」（講談社・現代思想の冒険者たちシリーズ、1575円）  
すべての章に言及する余裕はないので、講義で扱う章は第1回目の講義で通知する。  
また、必要に応じてプリントを配布する予定である。

参考書：杉田敦「権力(思考のフロンティア)」(岩波書店、1470円)

### 【授業内容とその進め方】

前期のAでは20世紀を代表する思想家のひとり、ハンナ・アーレントの全体主義論を解説する。  
講義では最初に、20世紀の最大の危機ともいえる全体主義とは何だったかについて、簡単なスケッチをするところから出発する。そのうえで、テキストにそってアーレントの著書「全体主義の起源」の内容を概観し、全体主義が西欧思想史のひとつの総決算としてあること、あるいはそれが過去の問題というにとどまらず、現代にまで陰影を投げていることを確認する。そしてその後のアーレントの哲学的な営みが、すべて全体主義的なものとの対決に捧げられていることを論じていく。  
柱となる項目については下記キーワードを参照のこと。  
これはいわゆる総花的な思想史ではない。むしろ、全体主義という歴史的現実に対してアーレントがいかに格闘したか、とくにそこで用いられた思想史的方法論こそが学ばねばならない。

### 【授業時間外の学習（予習・復習等）】

とくになし

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

2/3以上出席した学生を評価対象とする。評価は、最後に提出してもらうレポートによる。  
レポートの課題は未定だが、講義内容の要約、あるいは講義と関連した自由研究など、いくつかのオプションを用意する予定である。  
評価基準は、きちんとした作文ができていれば「可」とし、レポートの体裁をなしていないものを「不可」とする。「可」以上については、キーワードの適切な理解度に応じて、順次「良」「優」としていく。とくに自分の言葉で語りなおし、理解が血肉化していると認められるもの、独創性のあるものを「秀」としたい。

### 【オフィスアワー：授業相談】

とくに設けない。質問等は電子メールで受けつける。

### 【学生へのメッセージ】

ある程度予備知識があったほうが授業に興味もてるかも知れませんが、知識の詰め込みが主眼ではありませんので、その点をご安心ください。

電気通信大学 平成21年度シラバス

【その他】
とくになし